

情勢報告

みんなでエコシステム栽培に取り組もう～中芸オクラ部会現地検討会～



熱中症にならないよう、日陰で勉強中

7 月 16～29 日にかけて中芸集出荷場研究会オクラ部会は現地検討会及び目慣らし会を地区毎に開催し、部員 72 名が参加しました。

振興センターから 7 月以降の肥培管理や病虫害防除などの基本技術の徹底と、異物混入への注意や農薬の安全使用を周知しました。

J A 土佐あきからはエコシステム栽培の認証登録要件や有機質肥料の特性に合わせた利用方法、出荷規格の徹底について説明がありました。その後、ほ場巡回で生産者は栽培管理方法について熱心に情報交換を行いました。

振興センターは、今後も現地検討会や勉強会での技術情報提供等を通じて部会活動を支援します。

今作もナス‘土佐鷹’で儲けよう！～芸西土佐鷹勉強会～



初期の管理が大事

7 月 28 日に、JA 土佐あき芸西集出荷場ナス部会の土佐鷹生産者 9 名が集まり、他地区に先駆けて定植前の土佐鷹勉強会を開催しました。

振興センターは定植後の栽培管理ポイントの説明や土佐鷹での実証試験の結果等を報告しました。26 園芸年度実績では芸西の土佐鷹 10a 当たり出荷量がナス部会全体に比べて約 13% 多く、土佐鷹で CO₂ 施用した実証農家では 21t/10a 超が達成できました。

8 月中旬から定植が始まりますが、振興センターでは土佐鷹の全戸巡回や現地検討会で根張り・樹づくりを徹底指導し、更なる増収、品質向上を支援します。

J A 土佐あきサポートハウス初年度の総括と自立営農に向けて



栽培実績の確認と、来年以降の自立営農に向けて協議

安芸市では、7 月 28 日に J A サポートハウス支援チームがサポートハウスを借り受けている新規就農者と 26 園芸年度の経営実績の確認、次作の目標や課題の検討を行うとともに、サポートハウス借受終了した後のハウス確保に向けて話し合いました。

J A 支所からは、「サポートハウスの一年延長はできないか」、就農者からは「農地があればレンタルハウスを建てたい」などの意見が出ました。

振興センターは、支援チームとして地域と連携し、新規就農者の農地・施設確保や経営安定に向けて支援します。

次作はもっと増収するぞ！～土佐あき新施設園芸システム勉強会～



次はどうやって収量を伸ばそうか

7月30日、生産者等51名が集まりJA土佐あき本所で「土佐あき新施設園芸システム勉強会」を開催しました。

発足から1年が経過した本会では、生産者代表(5名)が、今作のCO₂施用効果やハウス内環境測定データに基づく栽培管理、また次作に向けての目標等を発表しました。振興センターからは生育診断の目安となる調査項目を提案し、続く日東紡(株)の技術アドバイザーによる講演でも、生産者を交えて生育診断手法について議論を深めました。

今後も振興センターでは、勉強会の活動を支援します。

26 園芸年度を振り返り、27 年目標達成するぞ！～新規就農研修支援事業修了生の営農定着～



実績を踏まえて次作の目標を確認

振興センターでは、JA土佐あき営農課と連携して、新規就農研修支援事業修了生の営農定着に向けて、7月末から8月に11名と面談しました。

農家から「今作の収量は目標を上まわった」、関係機関からは「収量アップには、水管理や、厳寒期のハウスの温度設定に注意して」など、前作の管理を確認しながら、次作の目標と改善策を話し合いました。

振興センターでは、関係機関と連携し、引き続き新規就農者の経営目標の達成に向けて支援します。

苗半作！今年のナスの育苗状況を確認！ ～県内の主要な種苗会社を巡回～



生育状況を確認する指導員ら

7月31日にJA土佐あき園芸研究会主催で普及指導員と営農指導員(計10名)が参加して県内の種苗会社(4社)における育苗状況の現地確認を行いました。

各種苗会社では、接ぎ木作業、養生、順化の各工程を見学し、高接ぎや鉢土の増量など昨年の要望が反映されていることを確認しました。今年は、より良苗を育成するための遮光管理、鉢ずらしなどについて要望しました。

8月上、中旬の台風12号・11号や停滞前線による生育への悪影響が心配されますが、今後、振興センターでは定植後の初期の栽培管理について指導します。

室戸市吉良川でミシマサイコ現地検討会を開催



ミシマサイコの概要を説明する普及指導員

7月31日、室戸市吉良川町で、ミシマサイコ栽培者1名と栽培を検討中の農家3名、室戸市地域おこし協力隊、JA営農指導員等が参加し、現地検討会を開催しました。振興センターはミシマサイコの栽培から収穫後の調整・出荷までを資料を使って説明しました。参加者からは「収穫時期にもう一度見てみたい」、「産地視察をしたい」といった栽培に前向きな声が聞かれました。

振興センターでは、今後も関係機関と協力して栽培希望者を募り、現地検討会等で概要を説明して、栽培者の増加を目指します。

水稻研修会～水稻共済損害評価委員会～



稲作の生育状況や病虫害対策について
説明する普及指導員

8月1日、NOSAI 高知安芸支所で損害評価委員 30 名を対象に水稻研修会を行いました。

振興センターは、今作の気象条件から稲作の生育状況、本県の作柄概況やこれまで農家から相談のあった障害事例やその対策について説明しました。

委員からは似たような障害事例があったことや「穀物害虫用の農薬はないか」等の意見・質問がありました。

今後、振興センターでは、NOSAI と連絡を密に取り、病虫害等の実態を把握し、その対策の周知を行います。

新たな天敵・微生物製剤に挑戦！～唐浜ピーマン部会～



いろんな天敵入れたら全部の害虫が防除できるだろうか？

8月4日に唐浜集出荷場ピーマン部会勉強会を開催し、赤ピーマン生産者 7 戸中 5 戸が参加しました。

振興センターからアザミウマ類防除体系の提案や、新たに製剤化された天敵のクロヒョウタンカスミカメやヒメカメノコテントウ、新しい微生物製剤について説明しました。これら新規製剤は今年度実証試験に用いるため、農家の高い関心がありました。

今後、振興センターは実証試験をしながら、唐浜地区に合ったアザミウマ類防除体系を組み立てていきます。

中芸地区天敵利用勉強会の開催～ヒメカメノコテントウを使いこなす～



中芸地区天敵勉強会での風景

8月4日、中芸地区において、住化テクノサービスの技術者と農業技術センター昆虫担当者を招き、天敵利用に関する勉強会を開催し、関係者を含め 33 名の出席がありました。メインテーマは新しく販売されたヒメカメノコテントウの利用法で、講演後バンカー植物の種類や、アブラムシ類以外の捕食能力などの質問がありました。また、クモの対応やバンカー植物であるゴマの扱い方など、熱心な情報交換が行われ、非常に有意義な勉強会になりました。

振興センターでは、まもなく始まる平成 27 園芸年度の栽培の中で、今回得られた貴重な情報について実証を行います。

田野町大野倶楽部で食農教育体験交流事業検討委員会の開催



大野台地で農作業が楽しめる計画にしたい！

8月5日と13日、大野倶楽部に各4名が参加して食農教育体験交流事業検討委員会が開催されました。

会では、3回の体験交流計画を作成し、第1回（9月27日）は天敵の観察、キュウリやゴマの栽培、オクラの収穫体験用ほ場の選定やPRチラシを検討しました。

また、「ただ、種をまくだけでなく畝立ても体験してもらおう」、「葉菜類を植えているいろんな野菜の収穫を楽しんで欲しい」等の意見が出されました。

今後も振興センターでは、インストラクター養成研修や検討委員会を通じて交流事業の定着に向けに指導していきます。

JA 土佐あき園芸振興の方針を決定！～地域園芸戦略推進会議～



土佐鷹の振興対策は、どうする！

8月6日に、JA 土佐あき本所において、生産者を含む25人が参加し、土佐あき地域園芸戦略推進会議が開催されました。

会議では、まとめづくりと販売戦略チームから、年間活動実績と今後の活動方針が発表され、安芸出荷場での系統出荷率向上等の成果が報告されました。続く、意見交換では、土佐鷹の販売方針の見直しについて熱心な議論が行われ、本年度の最大の課題としての取り組む方針が決定されました。

振興センターでは関係機関と連携し、本会議での決定事項を着実に実践できるよう支援します。

安芸市東川酒米研究会と四万十町酒米研究会による交流会 in 安芸市入河内



お互いに生育状況を確認

8月19日、18名参加し、安芸市東川酒米研究会と四万十町酒米研究会が、安芸市入河内の現地を合同巡回し、情報交換や意見交換を行いました。

振興センターは今作の気象条件を説明し、ウンカ類の飛来予測や近隣県の注意報の紹介や今年度もウンカ類の被害に注意するよう呼びかけました。

お互いの施肥方法、肥料の種類や白未熟粒対策などについて意見交換ができ有意義な会となりました。

今後、振興センターでは9月中旬の収穫に向け、JA 土佐あきとともに巡回、現地検討会の開催で病害虫対策を中心に指導します。